

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果について

平成28年4月19日に「平成28年度全国学力・学習状況調査」が実施されました。このたび、鎌倉市全体の調査結果がまとまりましたので、本市の児童生徒の学習・生活状況の概要をお知らせします。

### 1 調査の概要

#### (1) 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(平成28年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領：文部科学省から)

#### (2) 実施状況

○実施年月日 平成28年4月19日（火）

○実施内容 ①小学校の教科に関する調査（国語・算数）

主として知識に関する問題 国語A、算数A

主として活用に関する問題 国語B、算数B

②中学校の教科に関する調査（国語・数学）

主として知識に関する問題 国語A、数学A

主として活用に関する問題 国語B、数学B

③児童生徒質問紙調査（生活習慣や学習環境等）

○在籍児童・生徒数

小学校6年生 16校 1,302人

中学校3年生 9校 1,159人

#### (3) 調査結果の見方

本調査により測定できる学力は、あくまでも特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることから、児童生徒が身に付けるべき学力の全てを表すものではない。

※ 使用している用語についての説明は次のとおり

○平均正答数 … 児童及び生徒の正答数の平均

○平均正答率 … 児童及び生徒の平均正答数を百分率で表示

○中央値 …… 集団のデータを大きさの順に並べた時に、真ん中にくる値のこと  
平均値とともに集団における代表値としてとらえられる。

○標準偏差 …… 集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値

## 2 結果全体の概要

(1) 教科に関する調査（平均正答率：単位％）

○全体の傾向

小学校		国語A	国語B	算数A	算数B
鎌倉市	H28	73.9	60.5	79.7	49.4
	H27	69.8	66.3	76.4	47.4
神奈川県 (公立)	H28	70.3	58.2	76.6	47.3
	H27	67.9	64.3	74.0	44.8
全国 (公立)	H28	72.9	57.8	77.6	47.2
	H27	70.0	65.4	75.2	45.0

中学校		国語A	国語B	数学A	数学B
鎌倉市	H28	80.0	73.4	69.0	52.0
	H27	81.4	72.2	72.2	50.8
神奈川県 (公立)	H28	75.4	67.0	61.9	44.3
	H27	76.0	66.5	65.0	43.3
全国 (公立)	H28	75.6	66.5	62.2	44.1
	H27	75.8	65.8	64.4	41.6

小・中学校ともに、良好な結果であった。特に、中学校の数学A問題・B問題は、全国公立平均正答率及び神奈川県公立平均正答率を大きく上回っており、大変良好であったと言える。これは、今までと同様の結果が出ており、バランスよく基礎・基本の習得とそれらを活用する力の育成が図られていると考えられる。

## 3 教科別概要と分析 ◇…良好と認められる点 ◆…課題がある点

◎小学校

【国語】

(1) 概要

国語A「主として知識に関する問題」、国語B「主として活用に関する問題」とともに結果はおおむね良好である。

領域では「話すこと・聞くこと」において、おおむね良好な結果である。「書くこと」においては、グラフを基に、分かったことを的確に書くことに課題があるが、途中

であきらめず、答えようとする姿勢が見られる。「読むこと」においては、特に、目的に応じて本や文章を比べて読むなど、効果的な読み方を工夫することは良好である。しかし、目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことについては課題がある。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」においては、漢字を正しく読むことはよくできているが、ローマ字の読み書きについては、課題が残る。

## (2) 領域別分析

### 話すこと・聞くこと

◇目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合うこと。

### 書くこと

◇目的や意図に応じて、書く事柄を整理すること。

◆グラフを基に、分かったことを的確に書くこと。

◆目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書くこと。

### 読むこと

◇目的に応じて、図と表とを関係付けて読むこと。

◇目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。

◆登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉えること。

### 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

◇学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むこと。

◆学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くこと。

◆平仮名で表記されたものをローマ字で書くこと。

◆ローマ字で表記されたものを正しく読むこと。

## (3) 指導改善に向けて 指導のポイント (○) と対応した具体例 (→)

これまでの調査結果に引き続き、漢字を正しく書くことについては、下の学年で習得しておくべき基礎的・基本的な知識や技能の定着が不十分であった。学習した漢字を、繰り返し書いて練習するだけでなく、様々な場面で実際に使用することで、確実に習得することができるように、計画的に指導することが重要である。

また、「書くこと」にも課題が見られる。図表やグラフなどを読み、分かったことを的確に書くには、情報を正しく読み取り、必要な情報について適切な言葉を用いて書くことができるよう指導することが重要である。そして、図表やグラフを用いて自分の考えを書く際には、そこから目的に応じて必要な情報を取り出し、比較したり関係付けたりしながら自分の考えを明確にし、具体的に書くことができるよう指導することも重要である。

○図表やグラフを基に、読み取ったことを的確に表現する指導の充実。

→他教科で学習した図表やグラフの読み方を確認し、読み取ったことを的確に表現する学習。

○複数の叙述を基に、人物像を多面的に捉える指導の充実。

→読むことについて、登場人物に関わる複数の叙述を関係付けながら表などに整理し、人物像を多面的に捉える学習。

○当該学年までに配当されている漢字を習得する指導の充実。

→習得した漢字を書く機会を可能な限り多く、意図的・計画的に設定し、児童が漢字をより身近なものとして捉える学習。

○日常使う簡単な単語についてのローマ字を習得する指導の充実。

→仮名五十音と対応させながら、ローマ字表記の規則性を押さえ、他の学習活動等と関連付けるなど意図的にローマ字に関わる機会を設定し、繰り返し読んだり書いたりしながら身につけていく学習。

## 【算数】

### (1) 概要

算数A「主として知識に関する問題」、算数B「主として活用に関する問題」とともにおおむね良好な結果であった。

領域では「数と計算」において、小数・整数を用いた四則計算などはS Pおおむね良好な結果で、昨年度までとほぼ同様の結果であるが、「量と測定」においては、単位量当たりの大きさを求めることにやや課題がある。また、「図形」においては、知識・理解が定着する中で図形の構成要素に着目をした活用ができいた。「数量関係」においては、示された場面を読み取ることがおおむね良好な結果であるが、グラフと関連付けて数量関係を説明することには、昨年度同様、課題が見られる。

### (2) 領域別分析

#### 数と計算

◇除法における計算の確かめ方法や小数・整数の四則計算ができること。

◇数の大小関係を理解し、不等号を使うこと。

◆示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述すること。

## 量と測定

- ◇三角形の底辺と高さの関係について理解すること。
- ◇示された条件を基にほかの正方形について検討し、同じきまりが成り立つかを調べること。
- ◆単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定すること。

## 図形

- ◇図形について理解し、図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目すること。
- ◆示された除法の式と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述すること。
- ◆図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断すること。

## 数量関係

- ◇示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式に表すこと。
- ◇数量の関係を式に表し、具体的な数値を当てはめて計算ができること。
- ◆1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の間を関係を理解すること。
- ◆グラフから読み取り、それを根拠に示された事柄が正しくない理由を記述すること。

### (3) 指導改善に向けて 指導のポイント (○) と対応した具体例 (→)

本調査から、おおむね基礎的・基本的な知識・技能は身につけているものとうかがえるが、今後も、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるよう、さらに指導を工夫・改善していく必要がある。また、いくつかの領域にまたがる問題の正答率が低いことから、知識・技能を横断的な活用で定着させる指導も必要となる。他にも、式や数の意味を説明することや、示された事柄を説明することなど、記述して表していくことが必要である。

○日常生活の事象を数理的に捉え、場面を適切な式に表したり、式の意味を具体的な事象と関連付けたりすることで問題を解決する学習の充実。

→示された式について、式の意味や数値の意味を解釈し、合理的に判断し説明する学習。

○日常生活の問題の解決に向けて、必要な情報を収集し、目的に応じて表やグラフを用いて表したり、適切な判断をしたりする学習の充実。

→問題の解決のために、示された資料から必要な情報を判断する学習。

→縦軸の幅が変わることによって見え方が異なる二つのグラフについて、情報を正しく読み取る学習。

○算数の問題場面を見いだした考えを活用して、条件を変更した場合について発展的に

考察する学習の充実。

→図形の特徴を基に、式の意味を解釈する学習。

→図形の構成を通して、図形についての理解を深める学習。

○示された場面を適切に読み取り、場面を式に表す学習の充実。

→百分率で表された場面で、基準量と比較量の関係を正しく捉える学習。

## ◎中学校

### 【国語】

#### (1) 概要

国語A「主として知識に関する問題」の結果はおおむね良好であり、国語B「主として活用に関する問題」の結果は全体を通して良好である。正答率の傾向は全国、県と同様である。

領域では「話すこと・聞くこと」「書くこと」においては、おおむね良好な結果である。「読むこと」においては、課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えることに課題があるが、途中であきらめず、答えようとする姿勢が見られる。一方、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」においては、文の成分の照応について理解することと、文字の形や大きさ、配列に注意して書くことに課題がある。また、文脈に即して漢字を正しく読むことはよくできているが、正しく書くことや語句の意味を理解し、適切に漢字を使うことについては一部課題がある。

#### (2) 領域別分析

##### 話すこと・聞くこと

◇相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話すこと。

◇全体と部分との関係に注意して話を構成すること。

##### 書くこと

◇伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くこと。

##### 読むこと

◇登場人物の言動の意味を考え、内容を理解すること。

◇奥付の特徴や役割を理解すること。

◇目的に応じて必要な情報を読み取ること。

◆課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えること。

##### 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

◇文脈に即して漢字を正しく読むこと。

◇歌に表れた作者の思いを想像すること。

- ◆文脈に即して漢字を正しく書くこと。
- ◆語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと。
- ◆文の成分の照応について理解すること。
- ◆文字の形や大きさ、配列に注意して書くこと。

### (3) 指導改善に向けて 指導のポイント(○)と対応した具体例(→)

課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えることに課題がある。そのため、文章を読んでものの見方や考え方を広げるために、書かれている内容を正しく理解するとともに、新たな疑問や課題の有無について吟味することが大切である。また、課題を解決するためには、目的に応じて適切な情報を収集する必要がある。情報収集にあたっては、新聞や雑誌、コンピュータや情報通信ネットワークなどの様々な情報手段、学校図書館などの活用を図ることが重要である。

言語事項では、文脈に即して漢字を正しく書くことと、文字の形や大きさ、配列に注意して書くことに課題がある。漢字を書くことについては、習った漢字を積極的に使用するように継続して指導することが大切である。また、書写の学習では、書いたものについて生徒が互いに評価し合う場面を設け、字形や文字の大きさ、配列などの観点を具体的に示した上で、実際に書き直したものと見比べたり、ノートや掲示物などを書く際に、書写で学んだことを活用したりするように指導することが重要である。

○自ら課題を決め、解決するための方法を考える指導の充実。

→互いの感想を交流して疑問点を出し合い、新たな課題を設定する学習。

→学校図書館を利用し、目的に照らして必要な本や資料を探す学習。

○日常的な漢字指導の工夫。

→習った漢字を積極的に使うことや、同音の漢字や形が似た漢字に着目し、間違いやすい漢字に注意する学習。

○場面に即した語句・語彙指導の工夫。

→語句の辞書的な意味を基にして、文脈の中での意味を捉えたり、使い分けたりする学習。

○文の成分の照応についての指導の充実。

→辞書を用いて、辞書的な意味を確認するだけでなく、文脈における意味についても捉える学習。

○毛筆の指導の充実。

→書写の学習において、書いたものについて生徒が互いに見比べる場面を設定し、具体的な観点を示した上で、実際に書き直したものを互いに評価し合う学習。

## 【数学】

### (1) 概要

数学A「主として知識に関する問題」、数学B「主として活用に関する問題」とともに良好な結果であった。

領域では「数と式」において、小学校の内容に加え正負の数、文字を使った式においても計算することがおおむねできている。「図形」においては、証明の問題で、筋道を立てて証明していくことに課題があるものの、途中であきらめずに答えようとする姿勢が見られる。一方、垂線の作図方法に関する問題など、基本的な作図の方法についての理解に課題がある。「関数」においては、与えられた値から、もう一方の値を求める計算が良好な結果であるが、反比例に関する理解に課題が残る。また、「資料の活用」では、与えられた資料を表やグラフに整理し、代表値などを用いた資料の傾向を読み取り、表現することに課題がある。

### (2) 領域別分析

#### 数と式

◇分数と小数の乗法、正の数と負の数の加法、整式の加法と減法の計算ができること。

◇与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、処理すること。

◆数量関係を文字式で表すこと。

◆与えられた式を用いて問題を解決する方法を数学的に説明すること。

#### 図形

◇見取り図に表された立方体の角の関係を読み取ること、平行線や角の性質を用いて角の大きさを求めること、図形の性質を基にして、垂直に交わることを、記号を用いて表すこと。

◇比例式からどのような図形であるか、新たな事柄を見い出し、説明すること。

◆角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの基本的な作図の方法を理解し筋道を立てて証明すること、それを具体的な場面で活用すること。

#### 関数

◇比例や1次関数の関係を表す表から、 $x$ の値に対応する $y$ の値を求めること。

◇与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理すること。



- ◆反比例の関係になるという理解、また、式で表すこと。
- ◆前提となる条件が不足している場合、一次関数を用いて具体的事象を説明すること。

#### 資料の活用

- ◇簡単な確率を求めること。
- ◇資料の傾向を的確に捉え、目的に応じた判断の理由を数学的な表現で説明すること。
- ◆資料を整理した表から、代表値を求めること。
- ◆与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現すること。

#### (3) 指導改善に向けて 指導のポイント (○) と対応した具体例 (→)

本調査から、おおむね基礎的・基本的な知識・技能は身につけているものとうかがえるが、今後も、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるよう、さらに工夫・改善していく必要がある。「数と式」の領域において、与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することに課題があり、数学的に処理された結果に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実が必要である。

○事柄や数量の関係を捉え、その関係を文字式に表す活動の充実。

→関係を図に表したり、具体的な数や言葉を使った式を利用したりして関係を捉え、文字式に表す学習。

○作図した図形の特徴を、作図の方法に基づいて捉える活動の充実。

→個々の手順で得られる点や線分の特徴を、図形の性質と関連付けて読み取る学習。

○前提として必要な条件を判断し、それが適している理由を説明する活動の充実。

→条件を付加する必要があるとき、付加する条件を判断し、それが適している理由を説明する学習。

○不確定な事象を考察する場面で、目的に応じて資料を整理し、資料の傾向を読み取って問題を解決する活動の充実。

→目的に応じて資料を整理し、資料の傾向を読み取り、解決の構想を立てる学習。

## 4 児童生徒質問紙の概要と調査結果

### 【概要】

#### ◎小学校

学校以外での勉強時間が1日3時間以上という児童が全国よりもかなり高い率を示している。また、学習塾に通っている児童も全国よりも多い。

読書が好きと感じる児童や、読書に費やす時間が全国、県の割合と比べて高い。

朝食を毎朝きちんと食べることなどの基本的な生活習慣はおおむね良好である。

規範意識については、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか」という質問に対して「当てはまる」という回答の割合がほぼ、全国、県と同様の結果であった。

## ◎中学校

学校以外での学習時間が全国に比べて高いが、学習塾での学習時間が長いことがうかがえる。それに伴い、家庭でゲームやメールなどをする時間が低いと考えられる。

話し合ったり聞いたりする学習活動を行なっているという割合が全国、県に比べて高く、その中でも生徒間での話し合い活動の割合が高いことから、言語活動の充実が図られてきていると考えられる。また、授業の中で生徒が学習のめあてやねらいを意識している割合が全国、県に比べて非常に高い。

規範意識については「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思うか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した割合は、県とほぼ同様の結果であったが、全国より低い。これからも継続して指導をおこない意識の向上を図っていく必要がある。

### 【調査結果】

## ◎ 小学校

《基本的な生活習慣、学習習慣等》

◇朝食喫食率が全国、県に比べてやや高く、90%を超えている。

◇1日当たりの読書時間や新聞を読む頻度は県よりやや高い。特に30分以上読書をする児童の割合は、全国、県に比べて高い。

◇テレビゲームや携帯、スマホなどによる通話やメールなどを1時間以上している児童の割合は全国、県と比べて低い。

◇学校以外で平日、休日とも1日当たり勉強している時間は3時間以上と回答している児童が全国、県に比べて多く、特に、全国の約2倍の割合である。

◇学習塾に通っていない児童の割合が全国、県に比べて低く、特に全国より10%以上低い。また、学習塾において学校より進んだ学習をしていると感じている児童の割合が高い。

◆学校の学習への予習・復習（特に復習、教科書を使いながらの自学自習）をしている児童の割合は全国、県より低い。

◆地域の行事やボランティア活動に参加している割合が全国に比べると低く、地域とのつながりに課題があると考えられる。

◆学校の決まりを守っていると言える児童の割合が全国、県に比べて低い。

◇いじめはどんな理由があってもいけないと考える児童の割合は全国とほぼ同じ割合である。

《学習に取り組む意欲・態度、学習状況等》

◇感想文や説明文を書くこと、自分の考えを話すこと書くことに難しさを感じている児

童は全国、県に比べて割合が低い。

◇読書が好きだと答えた児童の割合は全国、県に比べてやや高い。

◇相手を意識して話したり根拠をもって書いたりすることを心がけている児童の割合は全国、県に比べて高い。

◇国語、算数ともに記述式問題に最後まで解答を書こうと努力した児童が70%以上の割合である。

◆「総合的な学習の時間」の学習が好きであり、日常生活や社会に出て役立つと感じている児童の割合が全国、県に比べて低い。

◆5年生までに授業のはじめにねらいが示されていたと感じたり、ノートにまとめたりしていたと感じている児童や、授業の最後に振り返りをしていたと感じる児童の割合が全国、県に比べてやや低い。各学校において学習の見通しと振り返りをさらに意識することが必要である。

◆道徳の時間で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動をしていたと感じる児童の割合が、全国、県に比べやや低いので、教科化に向けて、考える道徳、議論する道徳の充実を図る必要がある。

◆調査問題の回答時間が足りなかったと感じている児童が多い。

## ◎中学校

《基本的生活習慣、学習習慣等》

◇朝食喫食率が全国、県に比べ、高く、90%近い。

◇テレビやビデオ、DVDを見たり、テレビゲームや携帯、スマホなどによる通話やメールなどを1時間以上したりしている生徒の割合は全国、県と比べて10%近く低い。

◇平日、休日とも学校以外での学習の時間が1時間以上の生徒の割合が全国、県に比べて10%近く高い。しかし、学習塾に通っている生徒の割合が全国のよりも20%高いので、家庭でではなく学習塾での学習時間が長いと考えられる。また、そのため、ゲームやメール等をする時間が低いとも考えられる。

◇家で計画的に学習したり宿題をしたりする生徒の割合や、教科書を使って自学自習をする生徒の割合は全国、県（特に県）に比べて高い。

◇学校に行くことや友達に会うことが楽しいと回答した生徒の割合は、全国、県に比べて高い。

◇学級の話し合いでお互い認め合ったり、協力して成就感を味わったりする生徒の割合が全国、県に比べて10%程度高い。

◆地域の行事やボランティア活動に参加している割合が全国に比べると低く、地域とのつながりに課題があると考えられる。

◆学校の決まりや友達との約束を守っていると言える生徒の割合が全国、県に比べて低い。

◆いじめはどんな理由があってもいけないと考える生徒の割合が全国に比べると2%程度低いですが、県とはほぼ同じ割合である。

《学習に取り組む意欲・態度、学習状況等》

- ◇課題解決学習に積極的に取り組んだと考えている生徒の割合が全国、県に比べて10%程度高い。
- ◇話し合ったり聞いたりする活動をよく行っていると回答した生徒の割合が全国、県に比べて高い。特に生徒間の話し合い活動の割合が全国、県に比べて10%程度高い。言語活動の充実が図られてきていると考えられる。
- ◇授業の中で、生徒が学習の目標（めあて・ねらい）を意識している割合が、県に比べて20%高い。
- ◇感想文や説明文を書くこと、自分の考えを話すこと書くことに難しさを感じている生徒は全国、県に比べて割合が低い。
- ◇読書が好きだと答えた生徒の割合は県に比べてやや高い。
- ◇相手を意識して話したり、根拠をもって書いたりすることを心がけている生徒の割合は全国、県に比べて高い。
- ◇国語、数学ともに記述式問題に最後まで解答を書こうと努力した生徒の割合が全国、県に比べて10%近く高い。
- ◇調査問題の回答時間に余裕があった生徒が数学Bで県よりやや低いが、他は全国、県より高い。

## 5 今後の学校での取組

本調査における本市の集計結果は、学習面では過去の調査と同様、良好な結果を示している。また、いじめに対する児童生徒の意識が過去の結果に比べやや高まっており、いじめ防止の取組等の成果が見られる。今後も継続して指導する必要がある。

学習においては、各教科の調査分析にまとめた領域の課題、指導のポイント及び具体例を参考に、今後も引き続き知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成を図る取組を進めることが大切である。児童生徒が「授業が楽しい」「授業がわかる」と実感できる授業づくりが求められる。

また、日々の授業では「児童生徒が主体的に取り組む」「対話を通して学びを深めていく」といった授業形態の工夫が今後は必要である。言語活動はその学習活動の一つであるので、児童生徒が自分の考えをまとめたり、発表したり、他者の意見を聞いて再考したりするなどの活動を充実させる取組が必要となる。

さらに、授業の始まりには学習の目標（めあて・ねらい）を表示し、児童生徒が学習の見通しを持って授業を受け、その時間の終わりには、学習の目標に対する振り返りができるよう、組織的・計画的に行っていくよう努めることが大切である。

**調査結果概況** [国語A：主として知識]  
鎌倉市教育委員会－児童

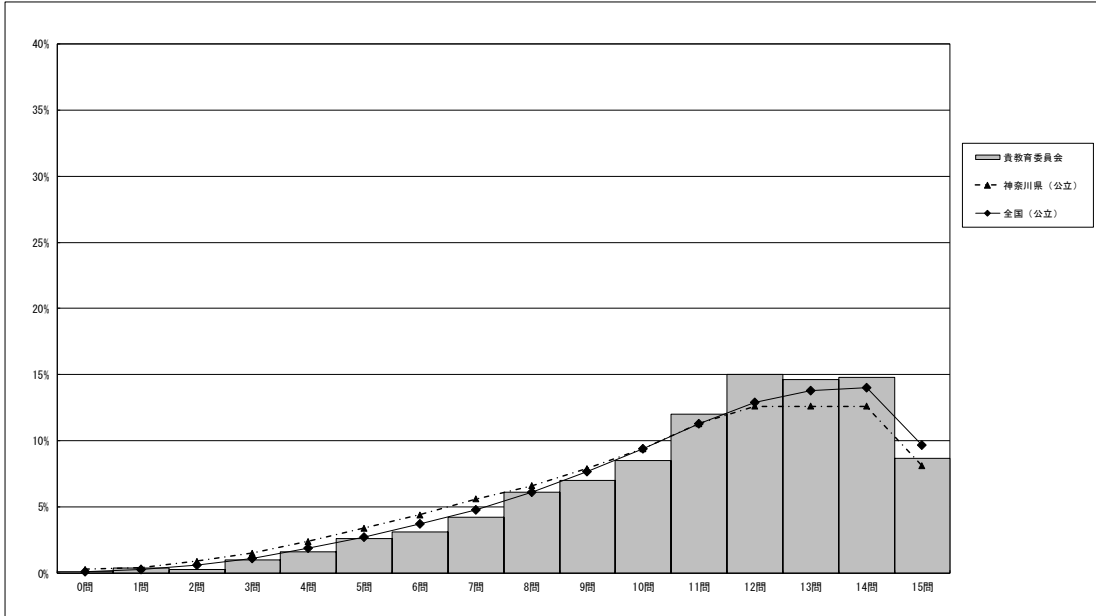
・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。  
※参考値として、在籍児童数、調査対象児童数、当日実施児童数、後日実施児童数、実施児童総数を示す。  
※在籍児童数及び調査対象児童数は、学校から回答のあった児童の人数を集計した値。  
※当日実施児童数は、4月19日に実施した調査（国語A）の解答用紙を提出した児童数。  
※後日実施児童数は、4月20日以降5月6日までに実施した調査（国語A）の解答用紙を提出した児童数。  
※実施児童総数は、当日実施児童数と後日実施児童数を合計した値。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,275	11.1 / 15	73.9	12.0	3.0
神奈川県 (公立)	72,920	10.6 / 15	70.3	11.0	3.3
全国 (公立)	1,021,905	10.9 / 15	72.9	12.0	3.1

	在籍児童数	調査対象児童数	当日実施児童数	後日実施児童数	実施児童総数
鎌倉市	1,302	1,296	1,275	1	1,276
神奈川県 (公立)	75,576	74,775	72,920	363	73,283
全国 (公立)	1,058,882	1,047,338	1,021,905	7,673	1,029,578

正答数集計値 (左：児童数 右：割合(%))		
0問	1	0.1
1問	5	0.4
2問	4	0.3
3問	13	1.0
4問	20	1.6
5問	33	2.6
6問	40	3.1
7問	54	4.2
8問	78	6.1
9問	89	7.0
10問	108	8.5
11問	153	12.0
12問	191	15.0
13問	186	14.6
14問	189	14.8
15問	111	8.7

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



**調査結果概況** [国語B：主として活用]  
鎌倉市教育委員会－児童

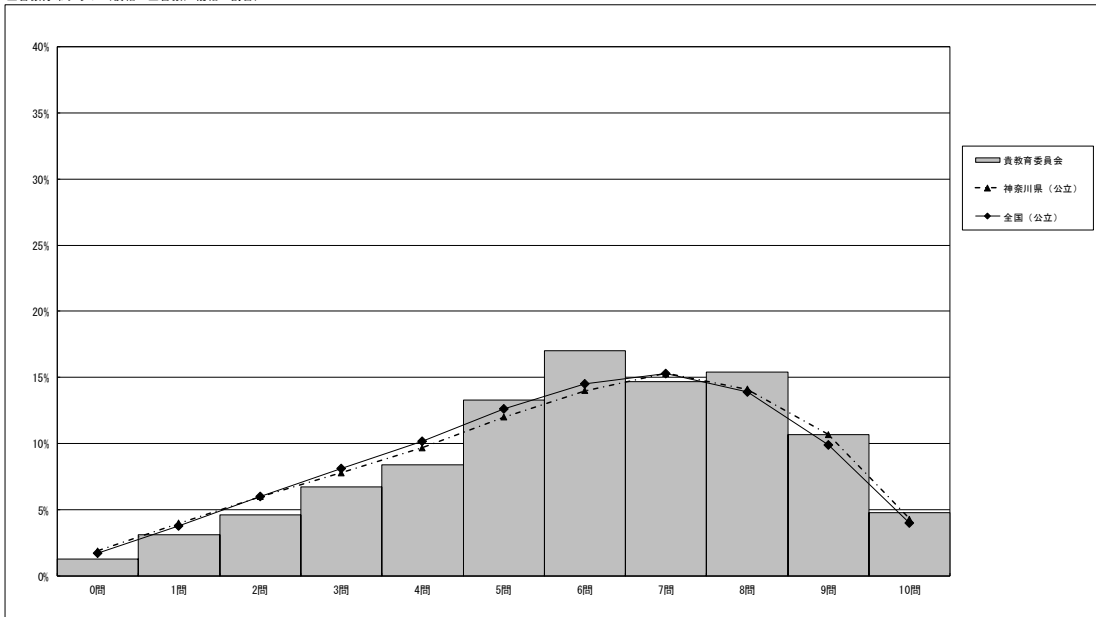
・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。  
※参考値として、在籍児童数、調査対象児童数、当日実施児童数、後日実施児童数、実施児童総数を示す。  
※在籍児童数及び調査対象児童数は、学校から回答のあった児童の人数を集計した値。  
※当日実施児童数は、4月19日に実施した調査（国語B）の解答用紙を提出した児童数。  
※後日実施児童数は、4月20日以降5月6日までに実施した調査（国語B）の解答用紙を提出した児童数。  
※実施児童総数は、当日実施児童数と後日実施児童数を合計した値。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,275	6.1 / 10	60.5	6.0	2.4
神奈川県 (公立)	72,907	5.8 / 10	58.2	6.0	2.5
全国 (公立)	1,021,635	5.8 / 10	57.8	6.0	2.4

	在籍児童数	調査対象児童数	当日実施児童数	後日実施児童数	実施児童総数
鎌倉市	1,302	1,295	1,275	1	1,276
神奈川県 (公立)	75,576	74,722	72,907	358	73,265
全国 (公立)	1,058,882	1,047,088	1,021,635	7,644	1,029,279

正答数集計値 (左：児童数 右：割合(%))		
0問	16	1.3
1問	40	3.1
2問	59	4.6
3問	85	6.7
4問	107	8.4
5問	169	13.3
6問	217	17.0
7問	188	14.7
8問	196	15.4
9問	137	10.7
10問	61	4.8

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



**調査結果概況** 【算数A：主として知識】  
 鎌倉市教育委員会－児童

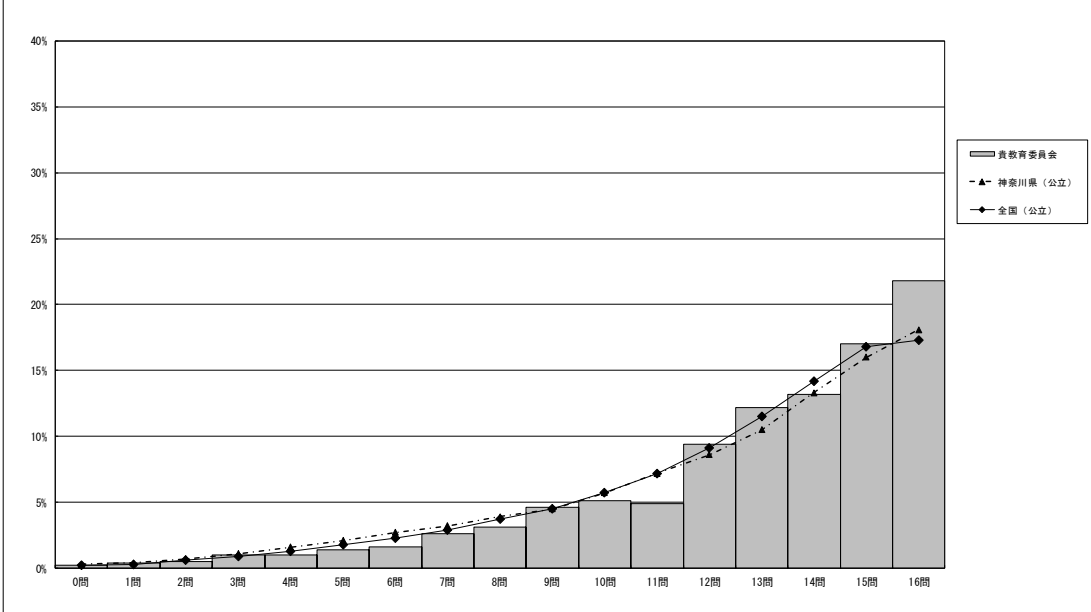
以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。  
 ※参考値として、在籍児童数、調査対象児童数、当日実施児童数、後日実施児童数、実施児童総数を示す。  
 ※在籍児童数及び調査対象児童数は、学校から回答のあった児童の人数を集計した値。  
 ※当日実施児童数は、4月19日に実施した調査（算数A）の解答用紙を提出した児童数。  
 ※後日実施児童数は、4月20日以降5月6日までに実施した調査（算数A）の解答用紙を提出した児童数。  
 ※実施児童総数は、当日実施児童数と後日実施児童数を合計した値。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,274	12.7 / 16	79.7	14.0	3.3
神奈川県（公立）	72,916	12.2 / 16	76.6	13.0	3.6
全国（公立）	1,021,910	12.4 / 16	77.6	13.0	3.4

在籍児童数	調査対象児童数	当日実施児童数	後日実施児童数	実施児童総数
1,302	1,295	1,274	1	1,275
75,576	74,774	72,916	363	73,279
1,058,882	1,047,357	1,021,910	7,672	1,029,582

正答数集計値 (左：児童数 右：割合(%))		
0問	2	0.2
1問	5	0.4
2問	6	0.5
3問	13	1.0
4問	13	1.0
5問	18	1.4
6問	20	1.6
7問	33	2.6
8問	40	3.1
9問	59	4.6
10問	65	5.1
11問	62	4.9
12問	120	9.4
13問	155	12.2
14問	168	13.2
15問	217	17.0
16問	278	21.8

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



**調査結果概況** 【算数B：主として活用】  
 鎌倉市教育委員会－児童

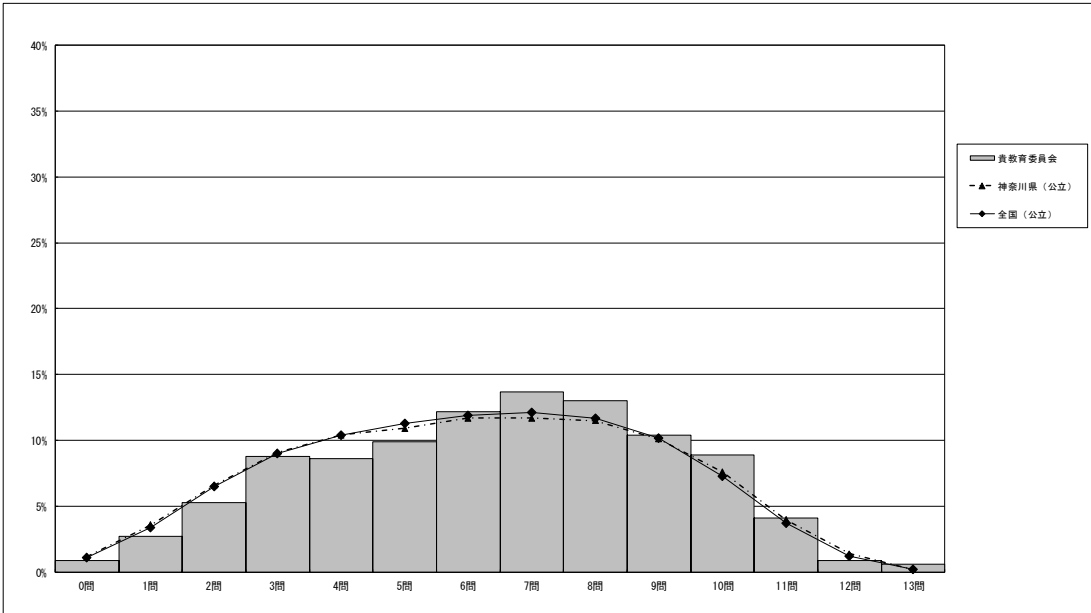
以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。  
 ※参考値として、在籍児童数、調査対象児童数、当日実施児童数、後日実施児童数、実施児童総数を示す。  
 ※在籍児童数及び調査対象児童数は、学校から回答のあった児童の人数を集計した値。  
 ※当日実施児童数は、4月19日に実施した調査（算数B）の解答用紙を提出した児童数。  
 ※後日実施児童数は、4月20日以降5月6日までに実施した調査（算数B）の解答用紙を提出した児童数。  
 ※実施児童総数は、当日実施児童数と後日実施児童数を合計した値。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,274	6.4 / 13	49.4	7.0	2.7
神奈川県（公立）	72,908	6.1 / 13	47.3	6.0	2.8
全国（公立）	1,021,637	6.1 / 13	47.2	6.0	2.8

在籍児童数	調査対象児童数	当日実施児童数	後日実施児童数	実施児童総数
1,302	1,295	1,274	1	1,275
75,576	74,720	72,908	365	73,273
1,058,882	1,046,978	1,021,637	7,695	1,029,332

正答数集計値 (左：児童数 右：割合(%))		
0問	12	0.9
1問	34	2.7
2問	67	5.3
3問	112	8.8
4問	110	8.6
5問	126	9.9
6問	156	12.2
7問	175	13.7
8問	166	13.0
9問	132	10.4
10問	113	8.9
11問	52	4.1
12問	11	0.9
13問	8	0.6

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



平成28年度全国学力・学習状況調査  
**調査結果概況** 【国語A：主として知識】  
 鎌倉市教育委員会一生徒

中学校調査

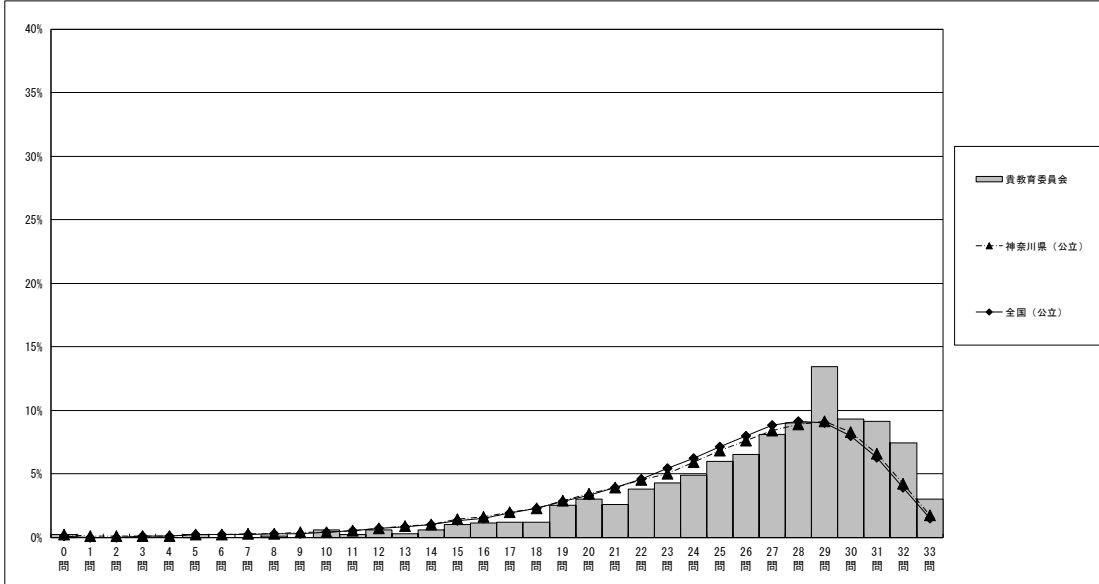
・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。  
 ※参考値として、在籍生徒数、調査対象生徒数、当日実施生徒数、後日実施生徒数、実施生徒総数を示す。  
 ※在籍生徒数及び調査対象生徒数は、学校から回答のあった生徒の人数を集計した値。  
 ※当日実施生徒数は、4月19日に実施した調査（国語A）の解答用紙を提出した生徒数。  
 ※後日実施生徒数は、4月20日以降5月6日までに実施した調査（国語A）の解答用紙を提出した生徒数。  
 ※実施生徒総数は、当日実施生徒数と後日実施生徒数を合計した値。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,084	26.4 / 33	80.0	28.0	4.9
神奈川県（公立）	65,612	24.9 / 33	75.4	26.0	5.6
全国（公立）	996,188	25.0 / 33	75.6	26.0	5.4

在籍生徒数	調査対象生徒数	当日実施生徒数	後日実施生徒数	実施生徒総数
1,159	1,146	1,084	0	1,084
70,048	69,085	65,612	311	65,923
1,056,403	1,040,734	996,188	3,829	1,000,017

正答数集計値		
(左：生徒数)	右：割合 (%)	
0問	2	0.2
1問	0	0.0
2問	0	0.0
3問	0	0.0
4問	0	0.0
5問	2	0.2
6問	0	0.0
7問	0	0.0
8問	1	0.1
9問	0	0.0
10問	6	0.6
11問	2	0.2
12問	6	0.6
13問	3	0.3
14問	6	0.6
15問	11	1.0
16問	12	1.1
17問	13	1.2
18問	13	1.2
19問	27	2.5
20問	32	3.0
21問	28	2.6
22問	41	3.8
23問	47	4.3
24問	53	4.9
25問	65	6.0
26問	71	6.5
27問	88	8.1
28問	98	9.0
29問	145	13.4
30問	101	9.3
31問	99	9.1
32問	80	7.4
33問	32	3.0

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



平成28年度全国学力・学習状況調査  
**調査結果概況** 【国語B：主として活用】  
 鎌倉市教育委員会一生徒

中学校調査

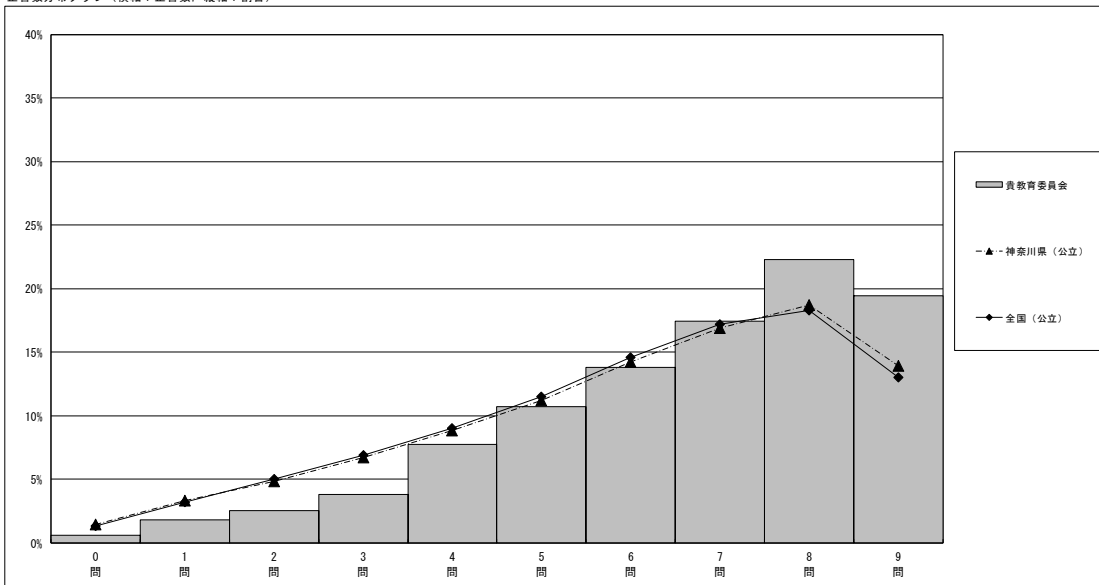
・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。  
 ※参考値として、在籍生徒数、調査対象生徒数、当日実施生徒数、後日実施生徒数、実施生徒総数を示す。  
 ※在籍生徒数及び調査対象生徒数は、学校から回答のあった生徒の人数を集計した値。  
 ※当日実施生徒数は、4月19日に実施した調査（国語B）の解答用紙を提出した生徒数。  
 ※後日実施生徒数は、4月20日以降5月6日までに実施した調査（国語B）の解答用紙を提出した生徒数。  
 ※実施生徒総数は、当日実施生徒数と後日実施生徒数を合計した値。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,084	6.6 / 9	73.4	7.0	2.1
神奈川県（公立）	65,625	6.0 / 9	67.0	6.0	2.3
全国（公立）	996,365	6.0 / 9	66.5	6.0	2.3

在籍生徒数	調査対象生徒数	当日実施生徒数	後日実施生徒数	実施生徒総数
1,159	1,146	1,084	0	1,084
70,048	68,945	65,625	310	65,935
1,056,403	1,040,603	996,365	3,830	1,000,195

正答数集計値		
(左：生徒数)	右：割合 (%)	
0問	6	0.6
1問	20	1.8
2問	27	2.5
3問	41	3.8
4問	83	7.7
5問	116	10.7
6問	150	13.8
7問	189	17.4
8問	242	22.3
9問	210	19.4

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



平成28年度全国学力・学習状況調査  
**調査結果概況** [数学A：主として知識]  
 鎌倉市教育委員会－生徒

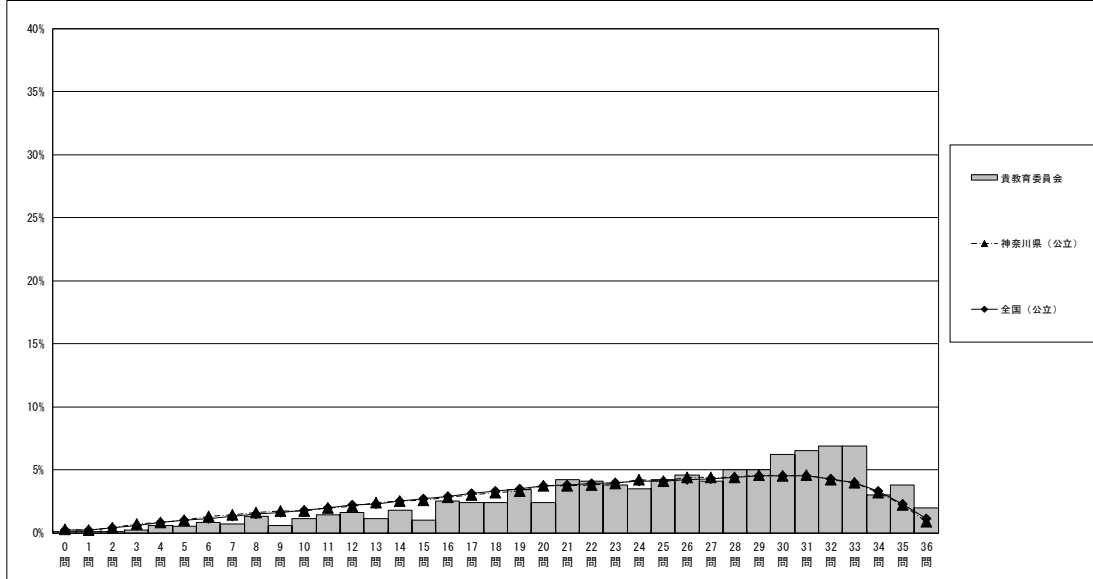
中学校調査

- 以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。
- ※参考値として、在籍生徒数、調査対象生徒数、当日実施生徒数、後日実施生徒数、実施生徒総数を示す。
- ※在籍生徒数及び調査対象生徒数は、学校から回答のあった生徒の人数を集計した値。
- ※当日実施生徒数は、4月19日に実施した調査（数学A）の解答用紙を提出した生徒数。
- ※後日実施生徒数は、4月20日以降5月6日まで実施した調査（数学A）の解答用紙を提出した生徒数。
- ※実施生徒総数は、当日実施生徒数と後日実施生徒数を合計した値。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差	在籍生徒数	調査対象生徒数	当日実施生徒数	後日実施生徒数	実施生徒総数
鎌倉市教育委員会	1,083	24.8 / 36	69.0	26.0	7.8	1,159	1,146	1,083	0	1,083
神奈川県（公立）	65,636	22.3 / 36	61.9	23.0	8.4	70,048	69,086	65,636	311	65,947
全国（公立）	996,502	22.4 / 36	62.2	23.0	8.3	1,056,403	1,040,710	996,502	3,845	1,000,347

正答数集計値 (左：生徒数 右：割合(%))		
0問	1	0.1
1問	1	0.1
2問	1	0.1
3問	2	0.2
4問	7	0.6
5問	5	0.5
6問	9	0.8
7問	8	0.7
8問	14	1.3
9問	7	0.6
10問	12	1.1
11問	15	1.4
12問	17	1.6
13問	12	1.1
14問	20	1.8
15問	11	1.0
16問	27	2.5
17問	26	2.4
18問	26	2.4
19問	37	3.4
20問	26	2.4
21問	46	4.2
22問	44	4.1
23問	41	3.8
24問	38	3.5
25問	45	4.2
26問	50	4.6
27問	44	4.1
28問	54	5.0
29問	54	5.0
30問	67	6.2
31問	70	6.5
32問	75	6.9
33問	75	6.9
34問	33	3.0
35問	41	3.8
36問	22	2.0

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



平成28年度全国学力・学習状況調査  
**調査結果概況** [数学B：主として活用]  
 鎌倉市教育委員会－生徒

中学校調査

- 以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。
- ※参考値として、在籍生徒数、調査対象生徒数、当日実施生徒数、後日実施生徒数、実施生徒総数を示す。
- ※在籍生徒数及び調査対象生徒数は、学校から回答のあった生徒の人数を集計した値。
- ※当日実施生徒数は、4月19日に実施した調査（数学B）の解答用紙を提出した生徒数。
- ※後日実施生徒数は、4月20日以降5月6日まで実施した調査（数学B）の解答用紙を提出した生徒数。
- ※実施生徒総数は、当日実施生徒数と後日実施生徒数を合計した値。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差	在籍生徒数	調査対象生徒数	当日実施生徒数	後日実施生徒数	実施生徒総数
鎌倉市教育委員会	1,082	7.8 / 15	52.0	8.0	3.5	1,159	1,146	1,082	0	1,082
神奈川県（公立）	65,621	6.6 / 15	44.3	6.0	3.6	70,048	69,082	65,621	314	65,935
全国（公立）	996,578	6.6 / 15	44.1	6.0	3.5	1,056,403	1,040,642	996,578	3,854	1,000,432

正答数集計値 (左：生徒数 右：割合(%))		
0問	9	0.8
1問	30	2.8
2問	43	4.0
3問	50	4.6
4問	78	7.2
5問	96	8.9
6問	101	9.3
7問	109	10.1
8問	90	8.3
9問	116	10.7
10問	82	7.6
11問	85	8.1
12問	78	7.2
13問	64	5.9
14問	35	3.2
15問	13	1.2

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）

